鹿児島市立病院だより

撮影　美園俊明副院長

- 新病院長　就任のご挨拶
- 新生児セミナー紹介
- 鹿児島市立病院建設工事
- 診療科紹介　～　内 科　～
- 看護科紹介　～ ７階病棟 ～
- 認定看護師紹介
- がん診療連携拠点病院研修会報告
- 医療安全管理室の紹介
- 鹿児島市立病院　ＩＣＴ回診
- 外来診療案内

病院広報・医療連携誌

平成２５年９月　第15号

病院長就任のご挨拶

鹿児島市立病院事業管理者
坪内　博仁

例年にも増して暑かった今年の夏ですが、８月下旬を迎え、朝夕はやっと暑さが和らいでまいりました。皆様方には、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。まず、医療連携という観点から、いつも皆様方には大変お世話になっておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

この度、８月１日付で鹿児島市病院事業管理者兼病院長に就任いたしました。まず、簡単に、自己紹介させていただきます。私は高知県出身で、昭和４７年鹿児島大学を卒業後当時の第二内科に入局し、佐藤八郎教授、橋本修治教授、有馬輝勝教授にご指導いただき、平成４年宮崎医科大学内科学第二講座教授として宮崎に移り、平成１７年鹿児島大学消化器疾患・生活習慣病学教授として母教室に帰ってまいりました。本年３月末に定年で退職し、４月からはHGF組織修復・再生医療学講座特任教授として製薬会社とともにHGFの創薬を目指した研究を進めていました。

鹿児島市立病院は、鹿児島県下では大学病院以外の唯一の５００床を超えるベッドを持つ公的医療機関です。また、本院は、皆様ご承知の通り、周産期医療、救急医療の面より鹿児島県の医療において大変重要な役割を果たし、同時にそれらを基盤として病院としても発展してまいりました。さらに、平成２３年には地域がん診療連携拠点病院にも指定され、周産期医療、救急医療に加えて、がん診療にも力を入れているところでございます。従いまして、今後とも、これらの医療の発展、充実に尽力することが、私の役割だと思っています。

現在、鹿児島市立病院は、平成２７年の新築移転に向けてJT跡地である上荒田町で新病院の建設が進んでいます。すでに免震装置の敷設が終わり、これから建屋自体が徐々に姿を現すようになってまいります。この機会に、これからの１０年、２０年先の鹿児島の医療という観点から鹿児島市立病院の在り方を院内においてもしっかり議論し、また、院外からもご意見も拝聴して、それに沿ったハード面、ソフト面での整備を行ってまいりたいと思っています。

医療資源が限られている現状では、とくに病診連携は地域医療の構築に重要です。皆様方には、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

新生児セミナー紹介

鹿児島市立病院総合周産期母子医療センター
新生児科　部長　　茨　　聡

昭和５１年に山下家の五つ子が、鹿児島市立病院で成育に成功し、それを機会に昭和５４年１１月に周産期医療センター（新生児センター、分娩センター、保健指導室）がオープンしてから３５年が過ぎようとしています。

新生児セミナーは、周産期医療センターが設立されたのを記念して、周産期医療センターおよび一般周産期医療施設の連携を念頭に、それらのスタッフの啓蒙と教育を目的に始まり、今年で136回目を迎えようとしています。年４～５回開催され、日本における周産期医療のエキスパートをお呼びし講演をしていただいたり、当新生児センターのスタッフによる講義や保育器などの医療機械の使用法の解説などを行ってきています。

開催は、鹿児島市立病院の講堂で、平日の夕方に１時間程度行い、毎回約１００名が参加していただいています。

この新生児セミナーのお陰で、一般周産期医療施設との連携がスムーズに行われるようになり、母体搬送、新生児搬送も定着してきており、昭和５０年代は全国でもワースト１０に入っていた鹿児島県の周産期死亡率および新生児死亡率も、徐々に改善され、近年ではベスト１０に入るようになってきています。

今後も新生児セミナーを続けていき、鹿児島県の周産期医療の発展に尽くしていきたいと思います。

鹿児島市立病院建設工事　～着工１年を迎え～

病院建設室
室長　上田　良二

月日が経つのも早いもので、新病院の着工より約１年が経過いたしました。

新病院の工事現場では、本棟本体工事を施工している竹中・植村・南生・三和特定建設工事共同企業体をはじめとする施工者や監理者合わせて２１の業者が連日の猛暑の中、万全の安全管理のもと、本日も新病院完成に向け一致団結して工事を進めております。

施工者以外にも新病院の工事は多くの関係者のご協力をいただいており、こうした皆様のご努力により、これまで無事故で計画どおりに進められておりますことを感謝申し上げます。

この機会にこれまでの工事内容や全体工程についてご説明いたします。

まず、昨年９月の着工後、１０月から建物敷地の液状化対策として地盤改良工事を行いました。

騒音や振動を低減する「静的締固め砂杭工法」で、砂を強制的に地中に押し込み直径７０ｃｍ、長さ２０ｍの砂状の杭を、１万m^2を超える施工範囲に４台の重機を使用し、計２,９４３本、約２ヶ月半で造成いたしました。

昨年末から本年３月にかけて杭工事を行い、建物の重量を支える、長さ５３～６３ｍ、直径１.２～１.８ｍのコンクリートの杭を計１３２本打設いたしました。

４月からは基礎の躯体工事に着手しました。鉄筋・型枠・コンクリート工事を順次進めていき、８月に基礎の床部分の施工が完了しました。

地盤改良工事　（平成２４年１０月）

基礎工事　（平成２５年６月）

写真１　積層ゴムアイソレーター設置状況

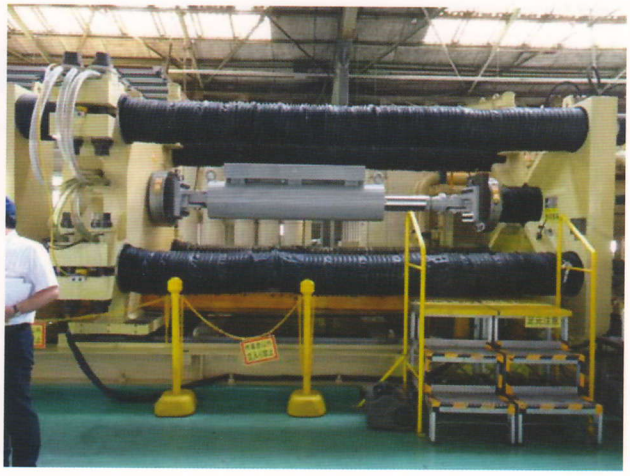


写真２　オイルダンパー　※製品検査時の写真

新病院では地震時にも病院としての機能を維持できるように、「免震構造」を採用し、「積層ゴムアイソレーター（写真１）」や「オイルダンパー（写真２）」などの免震装置を設置しています。地震時にはこれらが水平に動き、建物上部に伝わる揺れを軽減いたします。

免震構造を採用した建物は、県内でも少ないため、建築関係者などの関心が非常に高く、現場見学会を行った際には建築士会の方々をはじめ、約２５０名の参加がありました。
また、森市長も８月５日現場において、免震装置の設置状況を見学しております。

次に全体工程ですが、昨年９月に本棟、本年７月には別棟のエネルギーセンター（本棟への電力等の供給施設）の工事に着手し、平成２７年１月末の竣工を予定しております。

今後の作業につきましては、８月末より鉄骨の建方が始まり、数ヵ月後には最上階まで鉄骨が組み上がり、建物の形状が分かってまいります。平成２６年度になりますと、本棟工事などと並行して、外構・植栽等を行います。

竣工まで先は長いですが、１日１日を大切に、着実に作業を進めてまいります。

また、工事とは別に、現在、新病院での診療体制や機器、移転等の検討も進めており、こうしたことも徐々に皆様にお知らせ申し上げたいと考えております。

新しい病院が、患者家族等の利用される皆様に喜ばれるよう、最善を尽くしてまいりますので、今後とも各方面からご指導、ご協力をお願いいたします。

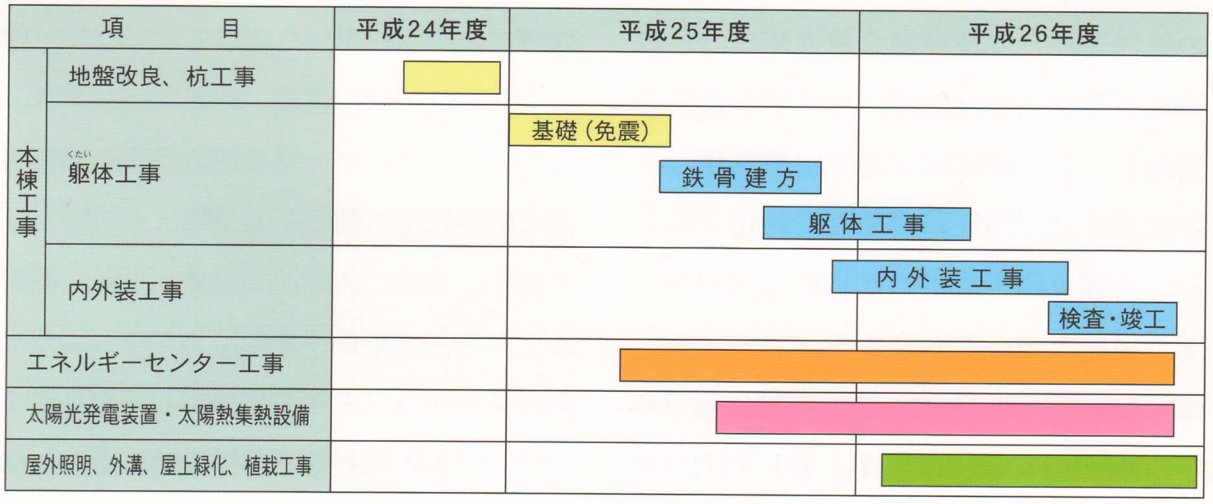


表１　全体工程

診療科紹介　～内科～

内科
科長　池田　賢一

鹿児島市立病院内科は、この春大幅に人員が入れ替わりました。

長らく当院内科を支えてこられた福岡忠博部長、太良光利科長が平成25年３月末にて定年を迎えられ退職されました。両先生の長年の功績を受け継ぎつつ、新たな風を吹き込もうということで、本年４月より濵﨑哲郎科長、川田英明科長、八木朋子医師、そして小生の４名が鹿児島大学より着任いたしました。現在のスタッフは、上記のほかに堀之内秀治科長、能勢裕久科長、籾博晃科長、宇都正科長、林大輔医師、新村昌弘医師、坂上公太医師の計11名となっております。その他当院の初期研修医が平均５名程度ローテートしており、大所帯となっております。

当院は、循環器科および消化器科と共に日本内科学会認定教育施設となっており、後期研修医の研修の一翼を担っております。その他にも、日本神経学会教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本呼吸器学会関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本血液学会専門医研修施設に認定されており、各種専門医取得のための認定施設としての機能も担っております。

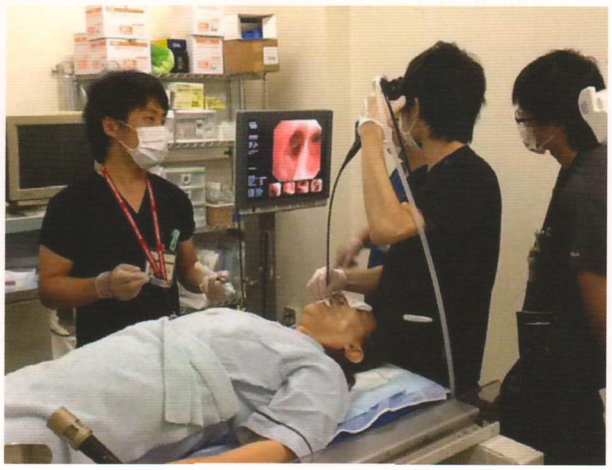
当科の診療内容といたしましては、鹿児島大学の神経内科、呼吸器内科、糖尿病内分泌内科、血液膠原病内科の各講座より医師が派遣されていることより非常に多岐にわたっております。以下に各科の特徴につき述べさせていただきます。

＜神経内科＞

髄液検査

神経内科は、常勤が池田、能勢、林の３名であり、新名清成前副院長に非常勤にて外来診療のお手伝いをいただいております。外来におきましては、頭痛、めまい、しびれ、認知症、パーキンソン病を初めとする神経難病など神経疾患に関しまして幅広く対応しております。また、入院におきましては、髄膜炎などの神経感染症や意識障害を伴うような神経救急疾患などを中心に担当しておりますが、その他にも不明熱など診断がはっきりしない疾患に関しましても対応しております。

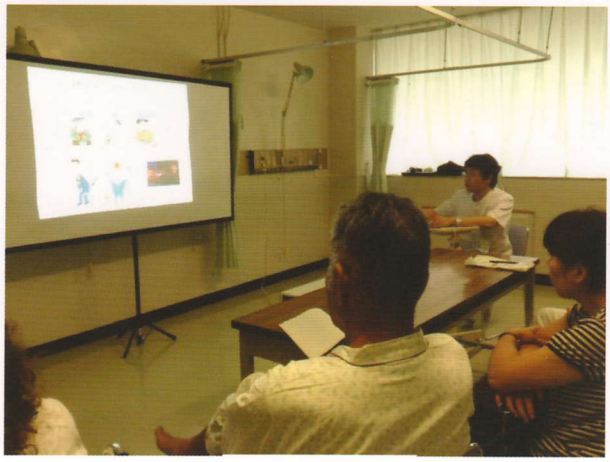
＜呼吸器内科＞



気管支境検査

呼吸器内科は、濵﨑、籾、新村、坂上、八木の常勤５名で診療に当たっております。肺癌を中心とした悪性腫瘍、肺炎、気管支炎などの呼吸器感染症、気管支喘息、過敏性肺臓炎などのアレルギー疾患、慢性閉塞性肺疾患、気管支拡張症、間質性肺炎などに対して入院、外来通院での診療を行っています。また重篤な呼吸不全を呈する患者、透析を必要とする患者等特殊な病態の患者など、集中治療を要する症例にも対応しています。

＜糖尿病内科＞



糖尿病教室

糖尿病内科は、常勤が堀之内、宇都の２名、非常勤にて中島雅恵医師が診療にあたっております。血糖コントロール不良例に対して、患者さんの病態に即した治療法を選択できるように努めています。本年度からＣＳＩＩ（持続皮下インスリン注入）、CGM（持続血糖モニター）を導入しました。年々、合併症の進行した患者さんが増えつつあり、各科との連携が欠かせません。ハイリスク患者の合併症予防のため、糖尿病療養指導士による透析予防外来、フットケア外来を開設しています。マンパワー不足をチーム医療で補いながら、地域のニーズに応えていきたいと思います。

＜血液膠原病内科＞

骨髄穿刺

血液膠原病分野では、現在のところ川田が常勤１名で対応しております。外来では、太良先生の患者様を引き継ぎ、良性から悪性疾

患まで、幅広い疾患の患者さんの外来治療継続し更に新規の紹介患者様の診療を行っています。悪性の血液疾患の外来化学療法を５月より開始しました。また、膠原病分野では、関節リウマチを中心に外来診療を開始しています。入院では、血液悪性疾患である悪性リンパ腫、成人Ｔ細胞白血病、多発性骨髄腫の入院治療を４月より再開し、化学治療を行っています。膠原病疾患でも４月より外来だけではなく、入院治療を開始しています。現在、患者数も両分野共に徐々に増えてきている状況となっております。

その他、当科には感染症診療に携わるものが多く、感染症専門医、抗菌化学療法専門医なども在籍しており、感染症診療に関しましても幅広く学べる環境となっております。また、ICDの資格を取得しているものも３名在籍し、院内ＩＣＴでは能勢を中心に４名がメンバーとなって積極的に活動しております。

以上のように当院内科は鹿児島大学の各講座より派遣を受けている混合部隊ではございますが、スタッフの年齢が近いこともあり皆仲が良く、和気藹藹とした雰囲気で診療にあたっております。毎週水曜日は内科全体の回診を行っており、いろいろな意見を自由に出し合いながら議論を重ねており、自分の専門分野以外に関してもお互いに勉強になっております。顔ぶれが変わったことで、中身もさらに「change」して、内科全体のactivityを益々上げていけるようスタッフ全員で努力していく所存でございます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

看護科紹介　～７階病棟～

この夏、一番“HOT”な病棟！

看護師長　　山本　むつみ

記録的な猛暑となった2013年の夏。しかし７階病棟はいつでも外気に負けないくらい“HOT”な病棟です。今回は、私たちの“HOT”な事情をご紹介します。

７階病棟は、救命救急棟と本館の最上階にある広い病棟です。３年前、病棟再編で東西の病棟がひとつになり誕生しました。東側からは桜島の七変化を、西側からは中央駅の観覧車「アミュラン」と感動的なサンセットシーンを見ることができ、その眺望はなんともぜいたくです。今年も患者さん方と錦江湾サマーナイト大花火を楽しみ、暑い夏を満喫しました。

また、７階病棟は内科と耳鼻いんこう科という珍しい組み合わせの混合病棟です。しかし意外と関連深く相性も良く、両科の医師ともに和気あいあいとしています。スタッフは看護師34名（女性30名、男性４名）、看護補助者７名の大所帯です。今春は、たくさんの新しい仲間を迎え、病棟の顔ぶれもだいぶ変わりました。しかし、病棟経験は短くても平均年齢は36.3歳ですから、看護師経験豊富なベテランがずらり。それぞれが自信と目標を持ち、いろいろなことに取り組んでいます。みんな明るくて元気！笑顔が自慢のスタッフです。

入院されている患者さんの疾患や病態はさまざまですが、もっとも多いのはやはり、がんの患者さんです。はじめて病名を告げられた方、不安を抱えて手術や化学療法、放射線療法、緩和医療を受ける方、そして遠い国へ旅立つ方。これはどこの病棟でも同じでしょうが、病とともに生きる人々の、たとえ微力でも力になりたいという“熱き”思いに満ち溢れています。

そんな中で、最近むくむく盛り上がってきて、とても“HOT”な話題が口腔ケアです。頭頸部癌の患者さんは特に、治療によって口腔粘膜障害に苦しみますが、少しでもその痛みや不快感を和らげたい。また口腔の清潔によって肺炎を予防したいという思いから、口腔ケアチームが立ち上り、取り組みを開始しました。夏に大勢で受験した口腔ケア学会認定の資格試験の結果が楽しみです。

もうひとつの“HOT”は、看護研究です。研究的視点で看護を見つめ、疑問を研究し、積極的に学会で発表しようと頑張っています。今年度はいくつもの大きな学術集会が鹿児島市で開催されました。日本看護倫理学会第６回年次大会、第44回日本看護学会－老年看護－学術集会では、大舞台で堂々と発表することができました。これから行われる日本看護研究学会第18回九州・沖縄地方会学術集会でも発表する予定です。苦手意識を関心へ変換するために、毎週水曜日の朝は抄読会を開き、有志で楽しく学習しています。

<談話室から見た台風一過のさわやかな桜島>

最後に、９月からPNS（Partnership Nursing System）という看護方式を本格的に導入しました。これは看護師２人がパートナーとして組み、日々の看護を提供するシステムです。お互いの持っている力を上手に出しあい、相乗効果を狙います。すべての勤務で受持ち患者さんを担当することにより、これまで以上に、患者さんに必要なケア、患者さんが求めているケアが提供できると考えています。自分の受持ち看護師を見つけるたびに“ほっと”してもらえるよう頑張っていきます。今後とも７階病棟をよろしくお願いします。

認定看護師紹介

鹿児島市立病院は認定看護師が９分野（感染管理、新生児集中ケア、がん化学療法看護、緩和ケア、皮膚・排泄ケア、集中ケア、手術看護、脳卒中リハビリテーション看護、救急看護）16名になりました。看護分野において実践・指導・相談の役割を果たすことにより、看護ケアの広がりと質の向上に貢献できるように日々頑張っています

感染管理認定看護師
土屋　香代子

平成19年に感染管理認定看護師を取得し、今年で６年目になります。今年度から施設内の感染管理活動は２人目の感染認定看護師が担うこととなり、現在は中央材料室に在籍しています。物品の洗浄・滅菌業務や滅菌物の管理は感染管理上重要なことであり、中央材料室内だけでなく各現場でも適切に管理しなければなりません。院内のICTメンバーの一員として、環境ラウンドでは滅菌された鋼製小物の収納場所や環境を定期的に確認しています。

鹿児島県には現在23名の感染管理認定看護師が誕生しており、年２～３回定期的に集まり情報交換をしています。積極的に参加しネットワークを強化することで、感染の流行拡大や新たな感染症の出現などに、適切に対応していきたいです。

新生児集中ケア認定看護師
大脇　吉子

新生児看護領域で、家族中心の看護を実践するには、退院調整は欠かせないものです。

４月から退院調整看護師として、医療連携室に配属になり、今はまさに「入院時から退院を見据えた看護の提供」を痛感しています。月に２～３回のNICU勤務と退院後に課題を抱えている児に対する退院調整介入の提案・退院カンファレンスへの参加・企画をさせていただいています。認定看護師・退院調整看護師として、児の成長発達に応じた看護の継続をめざし、自らがアセスメントしたことをスタッフや家族へ提案し、地域に「つなぐ」役割を担っていけるよう努力しています。一方で未だに新生児看護に関し未熟さを感じており、今後も日々学びの姿勢を持ち続けたいと思います。

緩和ケア認定看護師
塩満　多華子

2009年に緩和ケア認定看護師の資格を取得し、今年で５年目になります。

現在は、医療連携室とがん相談支援センターに所属しています。緩和ケアチーム専従看護師として、がんと診断され不安をかかえながら通院・入院治療を受けている患者・家族が自分らしく望む生活が送れるように多職種でサポートする体制づくりに努めております。また、地域の医療機関や施設との連携を図り、在宅支援の調整役を担っています。どのような状況におかれている患者・家族であっても、生きる希望をともに見いだすことができるように気持ちに寄り添える存在でありたいと思います。

がん化学療法看護認定看護師
松元　由紀子

がん化学療法看護認定看護師の資格を取得して４年目になります。その間、白血病や悪性リンパ腫、肝芽腫、肺細胞腫瘍などでがん化学療法を受ける子ども達と家族に関わってきました。乳児から思春期まで様々な年代の子供たちが、３年にも及ぶ辛い治療を安全に安楽に受けることができるように、体調の管理や心のケアを行っています。保育士さんと共に様々な行事を通して、楽しい時間を過ごせるように工夫しています。また、治療を受けるわが子と一緒に懸命に闘っている両親や、家で我慢しながら過ごす兄弟のケアも必要です。今後は地域との連携も含め、子どもたちの未来まで見据えた看護がしたいと思っています。

皮膚・排泄ケア認定看護師
真方　美紀

2009年に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を所得しました。現在医療連携室に勤務しています。院内では皮膚・排泄ケア領域での看護実践を通して、スタッフの相談に応じた教育活動や外科外来で開設されるストーマ外来の相談、そして褥瘡回診やNST回診でのチーム活動に取り組んでいます。現在、院内での横断的活動をいかして医療連携の必要な患者様のために院外との調整役を行っています。特に新生児や小児領域では成長発達段階に応じたトータルケアの提供に努めたいと考えております。皮膚・排泄ケア認定看護師として専門性をいかし患者様やご家族、地域の皆様が安心できる継続的な質の高い看護の提供を心掛けております。

集中ケア認定看護師
森　直美

2012年に集中ケア認定看護師を取得し、現在中央ＩＣＵで勤務しています。急性期の患者が、集中治療を受けられている時から、先を見据え、変化している瞬間を見逃さず、早くから元の生活ができるように早期リハビリテーションを行なっています。看護実践では、「根拠」を大切に指導することを常に心がけて、日々のケアをスタッフと共に考え、看護力の向上を目指しています。また、呼吸サポートチーム（RST）のメンバーとして、人工呼吸器を装着されている患者が、早期に人工呼吸器から離脱できるよう、医師を含めたメディカルスタッフとともにチーム医療を行い、患者にとって一番良い医療・看護を提供していきたいと思います。

がん診療連携拠点病院研修会報告

がん診療連携拠点病院第一部会事務局
塩満　多華子

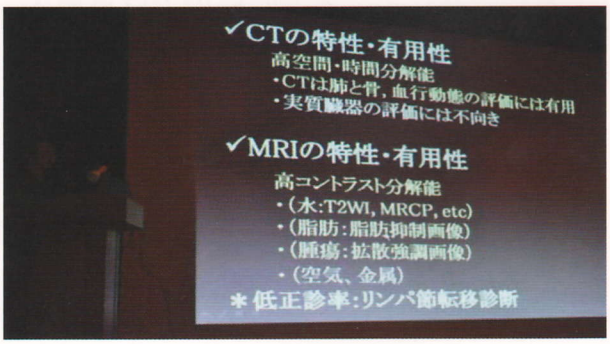
鹿児島市立病院は、2010年より地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、地域のがん治療の中核病院として役割を担っています。がん診療連携拠点病院の役割として、専門的ながん医療の提供（手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療や早期からの緩和ケアの実施）、地域のがん診療の連携体制の構築（研修や診療支援、患者の受入れ・紹介）、がん患者・家族に対する相談支援及び情報提供があります。毎年、二次医療圏の医療従事者を対象とした研修会を企画し開催することで、地域のがん診療の質の向上、連携の強化を図っています。

研修会は、「がんの早期診断に関する研修」・「がん化学療法・放射線治療に関する研修」・「緩和ケアに関する研修」をテーマに毎年開催しています。また、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を県内の緩和ケアに精通した講師にご協力いただきながら、院内の医師、緩和ケアチーム、医事課職員共々力を合わせて年一回開催しています。医師だけでなくコメディカルも含む研修を行うことでチーム医療を意識した研修会を目指しています。県内から参加される医師・コメディカル、当院の職員との顔の見える地域連携を深める場所となっています。今年度は、11月16日（土）、11月17日（日）の２日間、かごしま福祉プラザで開催予定です。

『CT・MRIによる腹部断層画像診断の有用性』

鹿児島大学大学院　放射線診断治療学教室
講師　福倉良彦
平成２５年８月９日（金）
参加者：院外33名、院内54名

CT・MRIの技術の進歩により、画像診断の質が向上していることや短時間の撮影が可能になり、必要な情報が容易に得られるようになっていることなど改めて医学の進歩を感じた講演でした。



CTの有用性としては、X線の透過作用による成分評価で、水・空気・金属・脂肪などの描写に優れるが、空気分解能・時間分解能が高く、臓器に対しては造影が必要であり、

造影のタイミングが大事になります。MRIについては、人体の磁力を映像化したもので、MRCPなどの高コントラスト画像が可能です。拡散強調像やEOB造影、脂肪抑制画像や化学シフト描出による脂肪性病変描出にすぐれ、また膀胱や子宮などの骨盤臓器の描出に優れるなどの特徴があります。

がん治療の領域だけに限らず、画像診断は重要だと痛感した研修でした。

『緩和ケアとグリーフケア』

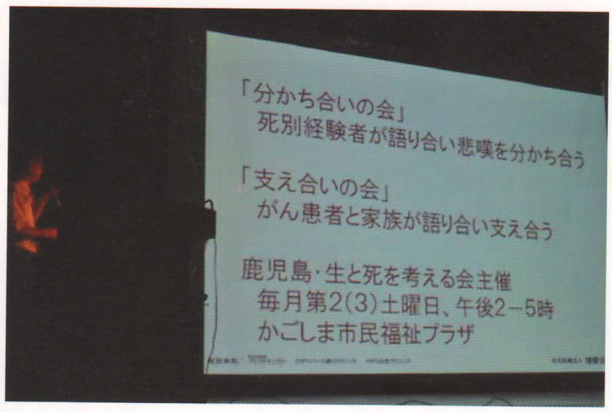
相良病院　副院長　斉藤　裕

平成２５年８月２６日(月)

参加者：院外48名、院内62名

斉藤先生の優しい空気に包まれて研修が始まりました。講演の内容は、「緩和ケアの概念、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」「がんになった親のこどもを支えるプログラム(CLIMB)®」「家族・遺族のグリーフケア」でした。参加者は、県内の他施設の方が多く参加され、緩和ケアに対する関心の高さがうかがえました。時期や治療の場所に問われずに提供され「苦痛(つらさ)」に焦点を当てて、「何をしたいか」「何を大切にしているか」は患者・家族によって異なることを医療者は理解して包括的なアセスメントとチームアプローチが必要であることを再確認しました。

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)は、今後の治療・療養について患者・家族とあらかじめ話し合うプロセスが重要で結果ではなくそのプロセスを大切にすることでお互いの想いを伝え合うことができることを学びました。しかし、どの時期に医療者の方から話をするべきか結論はでない問題であり、医療者もACPを意識することが大切なことであると感じました。



“人間の五感をフルに使って、見て、聴いて、語り合う”が緩和ケアの極意であるとメッセージをいただきました。

今年度、がん化学療法・放射線治療に関する研修は「乳がんの化学療法」で開催予定です。昨年度は、下記の内容で開催しました。

・がんの早期診断に関する研修
　「子宮頸がん診断の新しいアプローチ」
・がん化学療法・放射線治療に関する研修
　「メディポリスがん粒子線治療研究センターにおける粒子線治療」
・緩和ケアに関する研修
　「ともにある緩和医療Quality of life からQuality of lives へ」

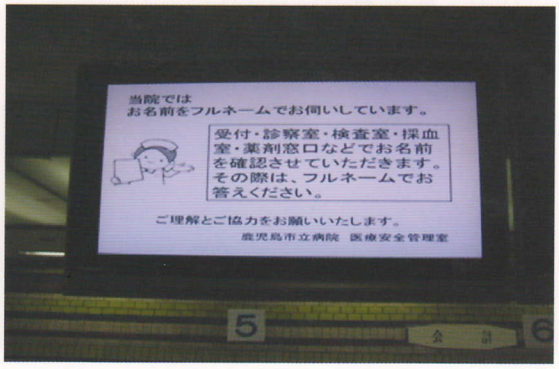
来年度も現場に役立つ内容の研修を企画したいと思います。医療従事者の皆様の参加をお待ちしております。

医療安全管理室の紹介

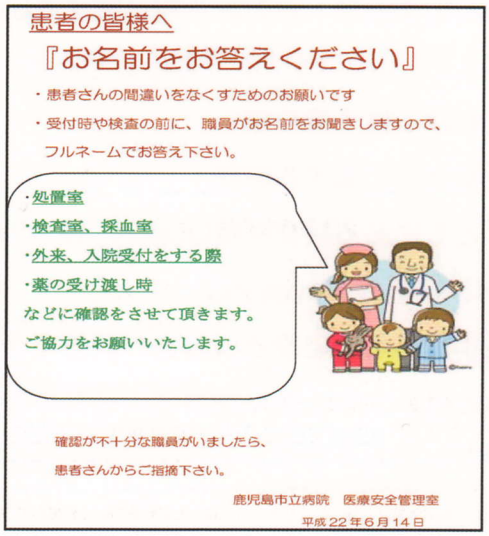
医療安全管理室室長
植田　みよ子

地域の急性期医療を担う中核病院である当院の基本理念「安心安全な質の高い医療の提供」の基盤である医療安全の確保に向けた取り組みを組織横断的に推進していく部門として、平成19年４月に新設されてから６年半が経過いたしました。開設当時、専従職員２名から現在は他部署兼任職員も含め、医療安全管理室長、医療安全管理者、院内感染対策看護師、医療安全相談員、保安指導員、事務職員の８名となりました。

外来受付カウンター電光掲示



医療安全管理室職員は、患者さんの立場に立ち、医療事故の発生や再発を防止し「安心安全な医療」を提供するとともに、「医療の質」を確保するために、時には悪戦苦闘しながらも、日々、各自の役割を自覚し医療安全管理確立に向けて取り組んでいます。さらに、業務に関わる全職種が、情報を共有し、連携・協働しながら、医療事故防止に取り組むチーム医療を行っています。また、チーム医療の中心にある患者・家族の方にも医療安全推進のため、多くの協力を頂いています。まだまだ医療安全管理が、不十分なところもありますが、「医療の質保証」確保のため、邁進したいと思います。



KYカードについて全入院患者さんに説明・協力依頼

鹿児島市立病院　ICT
（感染制御チーム Infection Control Team）回診の紹介

鹿児島市立病院感染管理者
小児科部長　鮫島　幸二

当院ＩＣＴは上部の「感染症予防対策委員会」、「感染症予防対策委員会専門部会」の元で実践的感染予防活動を行うチームです。

ＩＣＴは多職種で構成しておりメンバーは以下の通りです。

医　師：能勢(ICD，内科)、鮫島(ICD，小児科)、濱崎(ICD，呼吸器内科)、籾(呼吸器内科)、下野(救急救命科)、池田(ICD，内科)、本高（外科）

看護師：久保(ICN，医療安全室)、土屋(ICN，中材)、森(４階病棟)、八丸(中央手術室)、竹沢(ICN，小児科病棟)、谷口（中央手術室)、有馬（救急ICU)、江口(７階病棟)

薬剤師：久保井ICP、　能見　　細菌検査技師：原口、　奥　　事務部　：川邊

（※ICD、ICN、ICPは学会認定の感染制御専門資格を持つ医師、看護師、薬剤師の略です）

主な活動にICTラウンド（ICT回診）がありますので今回はこれについて紹介します。

ＩＣＴラウンドは細菌検査室で検出された細菌データを基に週単位で血液培養を監視し、血液細菌培養陽性者について毎週月曜日、各メンバーが集まってカンファレンスをしています。培養検体の中で血液や髄液は本来無菌なものなので、ここから検出される細菌は即病原体ということになり速やかに治療しなければ生命の危険を伴うことにもなりかねないので、これを注視しているわけです。

この中で病院内感染が疑われる事例や多剤耐性菌の検出事例については、抗菌薬は適正に使用されているか、細菌培養検査は適宜実施されているか、感染契機は何か、感染経路に問題はないか、他の患者への感染防止ができているかなどを検討し、必要に応じて主治医の意見や考えを聞いたり、患者さんのベッドサイドに赴いたり（病棟ラウンド）して治療薬の助言や追加培養のお願いをしたりしています。

また多剤耐性菌の蔓延を抑止するための薬剤監視(届出・許可制薬剤の長期使用例の検討)も行っています。

ＩＣＴラウンドは毎週月曜日午後５時前後からになり、病棟の勤務交代の時間と重なることもありますがご理解とご協力をお願いします。

鹿児島市立病院だより　第15号
発刊日：平成25年９月
発行者：〒892-8580　鹿児島市加治屋町20-17
坪内　博仁　鹿児島市立病院長(事業管理者)
担　当：医療連携室・広報委員会
ＴＥＬ：099-216-3631
ＦＡＸ：099-216-3632
ＵＲＬ：http://www.kch.kagoshima.kagoshima.jp

この広報誌は、紙へのリサイクルに適した材料を用いて作成しています。

外来診療案内

★ 印の医師は、各診療科の部長となっております。　　平成25年10月1日付

内科

		月	火	水	木	金
神経		★ 池田賢一		池田賢一	池田賢一	
			能勢裕久			能勢裕久
			林　大輔		林　大輔	
					新名清成	
血液		川田英明		川田英明		川田英明
呼吸器	初診				籾　博晃	
			濵﨑哲郎			濵﨑哲郎
		新村昌弘				（第2　新村昌弘）
				福田宏正		
	再診		籾　博晃			籾　博晃
		濵﨑哲郎			濵﨑哲郎	
				新村昌弘		
糖尿病		堀之内秀治	堀之内秀治		堀之内秀治	
				宇都　正		宇都　正
				林　大輔		
		中島雅恵			中島雅恵	
						樋口ちひろ

※　外来主治医制 をとっています。 ご紹介の場合は、診察日・専門外来日を確認の上、お願い致します。
主治医の診察日以外の御紹介は、予め 御連絡下さい。

消化器科

		月	火	水	木	金
消化管 胆・膵	初診	★ 美園俊明			美園俊明	
			吉永英希			吉永英希
				隈元　亮	隈元　亮	
	再診		美園俊明		美園俊明	
				吉永英希		吉永英希
		隈元　亮				
胆・膵の検査		吉永／隈元	吉永／隈元	吉永／隈元	吉永／隈元	吉永／隈元
胃内視鏡		吉永英希	隈元　亮	美園俊明	吉永／隈元	佐藤拓史
胃・腸透視			久保園高明			美園俊明
大腸内視鏡		吉永／隈元	久保園高明	吉永／隈元	吉永／隈元	佐藤拓史

※ 検査予約 及び お問い合わせは、午後14時から16時の間にお願い致します。

循環器科

	月	火	水	木	金
初診		★ 濱崎秀一			濱崎秀一
	小川正一		小川正一		
	二宮雄一				二宮雄一
		加治屋　崇		加治屋　崇	
			尾辻秀章		
		薗田剛嗣		薗田剛嗣	
再診	濱崎秀一			濱崎秀一	
				小川正一	
		二宮雄一			
					加治屋　崇
					尾辻秀章
			薗田剛嗣		

※ 外来主治医制 ・ 再診は 日・時の予約制 をとっています。
※ 24時間救急体制 をとっています。
平日8時30分から17時までは循環器科外来へ、時間外は救急センターへ御連絡ください。

小児科

		月	火	水	木	金
一般		★ 鮫島幸二				
			島子敦史			
						渡邉健二
				森田康子		
					中川俊輔	
専門		益田君教		益田君教		
					島子敦史	
		四俣一幸		四俣一幸		四俣一幸
				新小田雄一		新小田雄一
						川上　清
			檜作和子			
					立元千帆	

※ 初診の方は紹介制となっております。紹介状をご持参下さい。（再診の方は予約制になっております。）
※ 各専門分野は、初診・再診ともに予約制となっております。予め電話でご連絡ください。
専門分野　川上　清、新小田雄一：血液・悪性腫瘍 ／ 益田君教：循環器 ／ 島子敦史：循環器 ／
四俣一幸：神経・代謝 ／ 檜作和子：内分泌・代謝 ／ 立元千帆：アレルギー

整形外科・リウマチ科

		月	火	水	木	金
初診				★ 中村雅洋		中村雅洋
		泉　俊彦	泉　俊彦			
		藤元祐介			藤元祐介	
					香川陽一	香川陽一
			佐久間大輔	佐久間大輔		
再診			中村雅洋			
					泉　俊彦	
				藤元祐介		
		香川陽一				
						佐久間大輔

※ 小児整形は　初診：水・金曜日、再診：火曜日　となっております。

外科・心臓血管外科

	月	火	水	木	金
初診・再診	交替（※1）	★ 濵田信男	交替（※1）	濵田信男	交替（※1）
		中村　登		中村　登	
		本高浩徐			
				九玉輝明	
血管外科				★ 牛島　孝	
		峠　幸志			
胸部外科				横枕直哉（午後のみ）	
乳腺外科			金子朋代		

※1　月・水・金曜日は手術日のため、濵田・中村（登）・本高・九玉 の 交替制となっております。
※2　ストーマ外来は、毎月　第1水曜日です。

形成外科

	月	火	水	木	金
初診・再診	★ 森岡康祐		森岡康祐		森岡康祐
		栗原幸司		栗原幸司	
					浅見　崇
			亀井　航		
	園田わかな				
				中尾　崇	
	野元清子	野元清子			

脳神経外科

	月	火	水	木	金
初診		★ 平原一穂			
					山田正彦
				石井　毅	
	西牟田洋介				
			田中俊一		
			川原　団		
再診				平原一穂	
		友杉哲三（小児）			友杉哲三
			山田正彦		
		石井　毅			
					西牟田洋介
	田中俊一				
				比嘉那優大	
		川原　団			
					（坂元健一）
特殊外来		平原一穂（頭痛）			

※ 初診担当医は手術のため変更になる場合があります。担当医の希望がある方は電話で事前に御問合せ下さい。
※ 特殊外来受診時は、事前に電話で御問合せ下さい。

小児外科

	月	火	水	木	金
初診・再診			★ 野口啓幸		野口啓幸
			松久保　眞		松久保　眞

※ 急患以外は、出来るだけ 水曜日か金曜日にお願い致します。それ以外の曜日は、手術のため お待ち頂く場合があります。

皮膚科

	月	火	水	木	金
初診・再診	★ 三好逸男	三好逸男	三好逸男	三好逸男	三好逸男
	矢野祐子				
	玉井真理子			玉井真理子	
専門検査 処　置	アレルギー検査 生検・手術	生検	アレルギー検査 生検・手術	アレルギー検査 生検	生検
特殊治療		黒～茶あざ Qスイッチ ルビーレーザー			赤あざ

※ 専門検査・処置・特殊治療は予約制となっております。
※ 学会等で主治医が不在の場合があります。事前に電話にてご確認下さい。
※ レーザー治療とパッチテストは、原則として6月～9月は実施しておりません。
※ 初診の方は紹介制となっております。医師の紹介状を持参のうえ、お越し下さい。

泌尿器科

	月	火	水	木	金
初診・再診	★ 五反田丈徳	（※1）	五反田丈徳	（※1）	五反田丈徳
	一美貴弘		一美貴弘		一美貴弘
		萱島恒善			
透析	松田良一郎		松田良一郎		松田良一郎

※（※1）火・木曜日の外来診療担当医は、手術の都合により不定期となりますのでご了承ください。
※ 当科では入院患者様の透析加療を行っており、外来での通院維透析は行っておりませんのでご了承ください。
※ 小児泌尿器科は毎月第1週木曜日、14時～16時の予約制で行っております。
（都合により週が変更となる場合もございますので、事前にお問い合わせください）
※ 尿路ストーマ外来は毎月第3週木曜日、13時30分より予約制で行っております。

※ 受付時間は原則として、平日の午前8時30分から午前11時までとなっております。

鹿児島市立病院　〒892-8580　鹿児島市加治屋町20番17号
【電話代表 099-224-2101】【医療連携室　電話 099-216-3631　FAX 099-216-3632】

産科

	月	火	水	木	金
初診	上塘正人			上塘正人	
high risk外来		前田隆嗣			
			谷口博子		
	池畑奈美				
					古郷有佳子
low risk外来				中村俊昭	
			川畑宜代		
		松本　純			
					荒木　梢

※ 救急症例以外は予約制となっております。緊急で外来受診の場合は、必ずお電話にてご一報ください。

婦人科

	月	火	水	木	金
婦人科 初診	★ 波多江正紀			波多江正紀	
			中村俊昭		
		川畑宜代			山本文子
婦人科 再診			波多江正紀		
		上塘正人			
	中村俊昭				
				前田隆嗣	
			山本文子		
					谷口博子
					池畑奈美
	川畑宜代				
		古郷有佳子 ※1			
		荒木　梢 ※1			
				蔵屋一枝	

※ 再診の方については予約優先となります。ご予約については平日14時から17時の間に婦人科外来へご連絡ください。
※ 初診の方につきましては、ご予約を承っておりません。ご了承ください。
※1 古郷医師：第1・3・5週 ／ 荒木医師：第2・4週　の隔週担当となります。

眼科

	月	火	水	木	金
午前（初診・再診）	★ 上村昭典	手術 予約検査	中野哲郎	手術 予約検査	上村昭典
	中野哲郎		北　葉月		
	北　葉月	（専門外来）	尾辻　太	（専門外来）	尾辻　太
	吉永就正	牧内玲子		牧内玲子	吉永就正
午後	予約検査・診察	（手術）	予約検査・診察	（手術）	予約検査・診察

※ 初診について　　・月・水・金曜日となっております。一般外来のご紹介も、月・水・金曜日にお願い致します。
※ 再診の方は、完全予約制となっております。ご予約については平日15時から17時の間に眼科外来へご連絡ください。
※ 火・木曜日について　・手術日となっております。
・専門外来として、黄斑変性外来および糖尿病網膜症外来を行っております。
（緊急疾患、黄斑変性外来へのご紹介については事前にお問い合わせください）

耳鼻いんこう科

	月	火	水	木	金
初診	※ 手術の為 一般外来休診	（※2）	★ 花牟禮　豊	（※2）	花牟禮　豊
			林　多聞		林　多聞
			中島崇博		中島崇博
			高木　実（※1　交替制）		高木　実（※1　交替制）
再診		花牟禮　豊		花牟禮　豊	
		林　多聞		林　多聞	
		中島崇博		中島崇博	
		高木　実		高木　実	
小児難聴外来	鹿島直子（※3）（午前中のみ/要予約）		鹿島直子（※3）（午前中のみ/要予約）		

※1 水・金曜日は手術日の為、初診は交代制となります。担当医の希望がある方は電話で事前に御問合せ下さい。
※2 火・木曜日は再診日です。初診のご紹介は水・金曜日にお願いいたします（急患についてはお問い合わせください）
※3 新生児スクリーニング二次検査を含めて、小児難聴外来を行っております。（要予約）
平日15時から17時の間に耳鼻科外来へご連絡頂き、紹介状持参のうえ受診をお願い致します。

放射線科

	月	火	水	木	金
初診・再診	★ 内山典明	内山典明	内山典明	内山典明	内山典明
	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
透視検査		内山典明		内山典明	
	加治屋芳樹		加治屋芳樹		加治屋芳樹
RI検査	内山典明		内山典明		内山典明
		加治屋芳樹		加治屋芳樹	
緩和ケア外来				加治屋芳樹（※）	

※ 緩和ケア外来は、毎週木曜日　14時から16時　（完全予約制　一人30分程度）となっております。

歯科口腔外科

		月	火	水	木	金
初診・再診	午前	★ 上橋陸海	上橋陸海	（手術）	上橋陸海	上橋陸海
		平原成浩	平原成浩		平原成浩	平原成浩
	午後	（手術）	（障害児歯科）		（障害児歯科）	（手術）

※ 水曜日（終日）および、月曜日・金曜日午後は手術となっております。
※ 障害者（児）の全身麻酔下集中的歯科治療や、合併症を有する患者さんの歯科治療に関しての詳細は、お問い合わせ下さい。
※ 不在の場合もありますので、ご紹介頂く際は確認をお願い致します。